

平成28年度 強い農業づくり交付金(産地競争力の強化)の実施状況について

28-1 秋田県(畜産試験場)

(1) 施設等の整備状況

- 事業実施主体 秋田県
- 地区名等 大仙市神宮寺地区
- 整備施設 種鶏舎(463.7㎡)、ふ卵舎(338.4㎡)
- 対象作物 肉用鶏
- 事業費等 208,248千円
(うち交付金 104,123千円)



(2) 成果目標の達成状況(平成28年度完成、平成29年度から稼働)

取組名	成果目標	目標値		成果目標の達成プログラム				
		計画時(H27)	目標年(R2)	1年度目(H28)	2年度目(H29)	3年度目(H30)	4年度目(R1)	5年度目(R2:目標年)
産地収益力の強化に向けた総合的推進	ロード種種鶏の産卵率を55.4%から58.0%に向上。	55.4%	58.0%	58.0%	58.0%	58.0%	58.0%	58.0%
				55.9%	56.9%	59.2%	58.2%	59.2%
				19.2%	57.7%	146.2%	107.7%	146.2%
	比内地鶏の100羽当たりの生産コスト(飼料費)を96,120円から86,608円に削減。	96,120円	86,608円	86,608円	86,608円	86,608円	86,608円	86,608円
				94,027円	84,242円	84,989円	86,329円	86,364円
				22.0%	124.9%	117.0%	102.9%	102.6%

上段：計画 中段：実績 下段：達成率

(3) 事業の成果等

種鶏供給能力が従来の17千羽から22千羽となり、生産現場の要望に対する供給体制が強化された。

種鶏舎の整備により種鶏の飼養環境が向上し、ロード種の産卵率が向上したほか、ふ卵舎の整備により種卵の貯蔵からふ化までが、ワンウェイ(一方通行)方式となり、より衛生的な管理が可能となった。

これらにより、比内地鶏の生産羽数は平成28年度510千羽、平成29年度518千羽、平成30年度542千羽、令和元年度551千羽と増加している。

現在、コロナ禍で消費の大層を占める外食が閉ざされる等、比内地鶏の販売環境が大きく影響を受け、生産羽数を減産しているが、アフターコロナのV字回復に向け、生産者や関係者一丸となって取り組む販路拡大を支援し、増産を推進していく。

比内地鶏の情勢

令和3年3月
畜産振興課

1 飼養動向

(1) 飼養戸数

・平成20年の149戸をピークに年々減少傾向にあるが、令和2年は前年比1戸増の97戸であった。うち79%は、主産地の県北地域が占めている。

(2) 年間生産羽数

・全国の地鶏等の台頭により、平成28年には510千羽まで減少したが、その後3年連続で増加し、平成31年は551千羽まで回復した。
・しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、生産調整が行われたため、令和2年は481千羽に減少した。うち主産地の県北地域における生産羽数は410千羽で、全体の85%を占めている。

(3) 1戸当たりの年間生産羽数

・平成24年以降、増加傾向で推移していたが、令和2年は前年比86%の4,959羽であった。

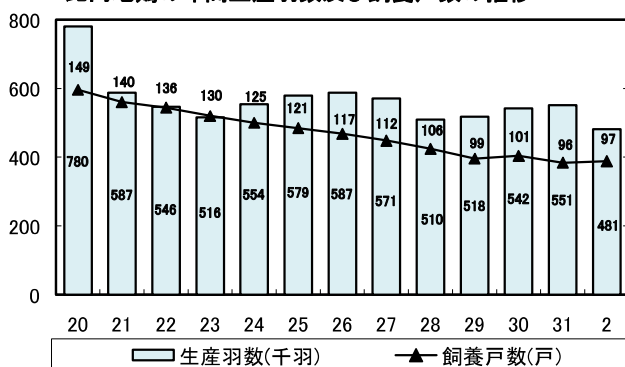
○ 飼養動向の推移

(単位：戸、千羽、%)

年次	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
飼養戸数	149	140	136	130	125	121	117	112	106	99	101	96	97
前年比	110%	94%	97%	96%	96%	97%	97%	96%	95%	93%	102%	95%	101%
年間生産羽数	780	587	546	516	554	579	587	571	510	518	542	551	481
前年比	107%	75%	93%	95%	107%	105%	101%	97%	89%	102%	105%	102%	87%
一戸当たり年間生産羽数	5,235	4,193	4,015	3,969	4,432	4,785	5,017	5,098	4,811	5,232	5,366	5,740	4,959
前年比	97%	80%	96%	99%	112%	108%	105%	102%	94%	109%	103%	107%	86%

(畜産振興課調べ)

比内地鶏の年間生産羽数及び飼養戸数の推移



○ 市町村別順位 (令和2年)

<生産農家数の多い市町村>

- ①大館市 (34戸)
- ②北秋田市 (20戸)
- ③能代市 (11戸)
- ④由利本荘市 (7戸)
- ⑤上小阿仁村 (5戸)

<生産羽数の多い市町村>

- ①大館市 (218千羽)
- ②北秋田市 (107千羽)
- ③由利本荘市 (42千羽)
- ④三種町 (27千羽)
- ⑤大仙市 (26千羽)

2 流通動向

・令和2年の流通出荷羽数は495千羽で、出荷先別の割合(羽数)は、県内事業者向けが全体の41%(204千羽)、県外事業者向けが59%(291千羽)であった。

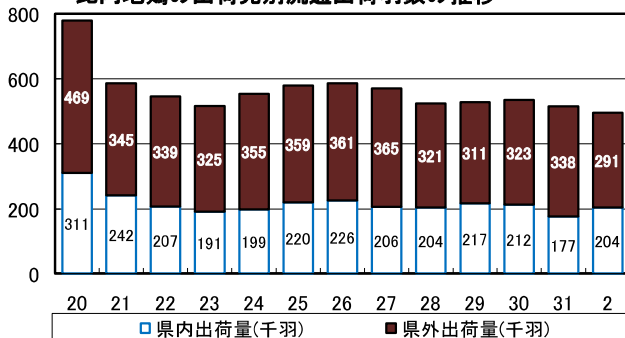
○ 流通動向の推移

(単位：千羽、%)

年次	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
流通出荷羽数	780	587	546	516	554	579	587	571	525	528	535	515	495
前年比	107%	75%	93%	95%	107%	105%	101%	97%	92%	101%	101%	96%	96%
県内向け出荷羽数	311	242	207	191	199	220	226	206	204	217	212	177	204
構成割合	40%	41%	38%	37%	36%	38%	39%	36%	39%	41%	40%	34%	41%
県外向け出荷羽数	469	345	339	325	355	359	361	365	321	311	323	338	291
構成割合	60%	59%	62%	63%	64%	62%	61%	64%	61%	59%	60%	66%	59%
食鳥処理業者期末在庫								113	21	5	12	48	34

(畜産振興課調べ ※食鳥処理業者在庫はH27から調査)

比内地鶏の出荷先別流通出荷羽数の推移



○ 出荷先別割合 (令和2年)

